

- 1 立正大学FD活動報告(平成26年度)
- 2 平成26年度 新任教員FD研修会報告
- 3 FD講演会(パネルディスカッション)開催報告
社会福祉学部/地球環境科学部/経済学部
- 4 自己点にゆーす

自己点検に絡む各種情報を発信していきます。



モラリスの

自己点にゆーす

vol.7

平成26年度 立正大学外部評価委員会
A日程開催と「自己点検・評価報告書」
執筆担当者説明会についてお知らせします

今年度で第3回目となる外部評価委員会は、より広範な視点からの意見を得るため、昨年より委員を2名増員し、下記のとおり、評価項目別による2日間開催としました。

開催日: A日程 5月31日(土)
対象: 基準4(教育内容・方法・成果)

開催日: B日程 7月5日(土)
対象: 基準6(学生支援)
基準7(教育研究等環境)
その他、社会連携・社会貢献

A日程は、石川委員長(高崎経済大学 学長)、小林委員(中村学園 理事長)、原田委員(立教大学 副総長)、田中委員(株式会社東洋経済新報社 執行役員 デジタルメディア局長)の4名の委員が、事前の書面評価に加え、当日本学関係者とのヒアリング(実地調査)を通じて、本学の長所や課題について提言していただきました。



2014.5.31 外部評価委員会A日程 ヒアリングの様式

今回指摘された事項については、「貴重な助言」として受け止め、自己点検・評価委員会を中心に即時対応をしていきます。また、今回の外部評価委員会実施を踏まえて、来年度の認証評価に向けた全学的・統一的な対応が出来るよう、再度、実施体制や運用面についても改善していきます。

「自己点検・評価報告書」執筆担当者説明会

本学では、大学の質保証、向上のための組織的な自己点検・評価活動として、毎年自己点検・評価報告書を作成しています。

今年度作成した自己点検・評価報告書は、認証評価申請のための、非常に重要な提出資料となります。そこで、今年度も昨年度同様、「自己点検・評価報告書」執筆担当者説明会を出前方式(希望の日時に説明者を派遣する方式)で行うことといたしました。

実施期間: 6月2日(月)~7月4日(金)

※実施期間中、1日予定

対象: 「自己点検・評価報告書」執筆を行う教職員

概要: 報告書作成に関する統一的な認識を構築するための説明会。フォーマットの変更点、昨年度によくあった質問、WGで見出した作成上の留意点を中心に、評定のつけ方や、何をどのように書けばよいか等を説明。

なお、各部署に配布している「大学評価ハンドブック」を執筆の前に一読しておいていただきたいと思ひます。

本件に関するお問い合わせは、学長室政策広報課(自己点検・評価室 内線4191)までお願いします。

RISSHO UNIVERSITY
FD NEWS LETTER vol.13

平成26年6月30日発行
編集発行: 立正大学学長室政策広報課
〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16
TEL: 03-3492-5250 FAX: 03-3493-9068
URL: http://www.ris.ac.jp/

立正大学FD活動報告(平成26年度)

平成26年度 新任教員FD研修会報告

日時: 平成26年5月17日(土) 13:30~17:30
場所: 研修会/品川キャンパス 1号館1階 第3会議室
懇親会/品川キャンパス 1号館4階 第7会議室

平成21年度から、新任教員研修会をFD活動の一環として位置づけて開催しています。

本研修は、①新任教員が立正大学の現状を把握し、②共通認識に立った上で教育・研究を実践していくこと、③学部を越えた教員間でのコミュニケーションを促し、④教員同士のつながりを深めること、⑤コンプライアンス意識をもつこと、を目的として開催しています。

新任教員FD研修会プログラム

1. 開会挨拶 理事長 古河良皓
2. 「立正大学と大学改革実行プランについて」
..... 学長 山崎和海
- 3-1. 「立正大学の目指す“教育の質保証”について」
..... 副学長 岡村 治
- 3-2. 「立正大学のキャンパス・マスタースタートについて」
..... 副学長 石井富美子
- 3-3. 「立正大学の入試政策について」 副学長 永田高英
- 3-4. 「立正大学の財務内容と公的資金の取扱いについて」
..... 副学長 榎原英夫
- 3-5. 「品川キャンパス・マスタースタートについて」
..... 副学長 高橋英英
- 4-1. ワークショップ
(A~Eグループに分かれて実施)
問題意識の共有と課題について共通認識をもつ
① 自己紹介
② “学生の主体的な学びを導く工夫”について(A・Bグループ)
“学生の学修時間を確保する工夫”について(C・D・Eグループ)
5. グループ発表/総括・閉会挨拶
6. 懇親会

研修会は古河理事長の挨拶から始まり、山崎学長の基調講演、その後、副学長が各担当について講演。ワークショップでは、5つのグループに分かれ、各テーマについて討議を行い、グループごとに発表しました。また、研修プログラム終了後、懇親会を開催。学部を越えた教員間の交流の良い機会になりました。

研修会終了後のアンケートでは、大学の取り組みについて分かって良かった、良い交流ができた、などプログラム内容、ワークショップの進め方など概ね好評でした。一方、講演時間、ワークショップの時間設定には要再検討との意見もありました。



ワークショップの様子



山崎学長による基調講演



参加者全員で撮影

立正大学FD活動報告(平成26年度)

FD講演会(パネルディスカッション)開催報告

日 時:平成26年4月19日(土)15:30~17:00

場 所:立正大学/

品川キャンパス11号館8階 第6会議室

熊谷キャンパス1号館 第1会議室(遠隔教育システムによる両キャンパス同時開催)

内 容:教育方法の工夫・改善に向けた取り組み事例
-②「学修支援体制の充実」について-

社会福祉学部・地球環境科学部・経済学部

参加人数:52人

平成26年度第1回FD講演会は、前年度同様にパネルディスカッション形式で行い、各学部の取り組みについて報告・共有する機会を持ちました。講演後のパネルディスカッションでは、学修支援体制の充実や、その展開などについて活発な意見交換が行われました。以下、報告内容です。

題目

個別到達度に応じた
グループ別ゼミ指導の試みと課題

～ラーニング・コモンズを活用した社会福祉士国家試験受験対策～

社会福祉学部(発表者・土屋典子講師)

社会福祉学部における学びの特色として、「社会福祉学」の学びの到達度を確かめる体系的な資格試験としての「社会福祉士・精神保健福祉士国家試験」受験という取り組みがあります。この受験対策の現状をみると、過去5年間合格率の低迷が続き、成績、低位・中位層のみならず上位層までも不合格となっている現実があり、これは学生生活への不満感の増強、ひいては、入試戦略にも影響を及ぼすのではないかと危惧されてきました。

そこで、2013年度、学科内の若手教員を中心に国家試験対策強化を行うこととしました。強化内容は、①学習支援:学習環境の整備、学習方法の伝授、②生活支援:生活のリズムを整え、規則正しい生活へと導く、③講座等の充実:受験対策講座の充実、受験ノウハウの伝授、という3本柱で、各担当教員がゼミ等を活用し取り組みを行い、その結果2013年度の合格者数は昨年度を大幅に超え、全国平均をも上回りました。

今回の取り組みからいくつかの学びを得ることができました。①学生たちは多くの可能性を秘めてお

り、教員が学生と時間をかけて丁寧に向き合う中で、学生が自ら学び、自ら考えようとする姿勢を引き出すことが十分に可能であること、②グループ学習を支援するための環境整備(ラーニングコモンズの活用)が重要であること。③今の学生の実情にあった学習支援方法、授業改善、カリキュラム改訂を行う必要性があること。今回の取り組みは、社会福祉学部における学びの集大成として、国家試験受験対策を活用することの意義について、関係者が認識を新たにすることができました。

題目

地球環境科学部における
リメディアル教育の導入と課題

地球環境科学部(発表者・伊藤徹哉准教授)

日本においては、大学全入時代を迎え、入試による高校の質保証や大学の入口管理を行うことが困難となりつつあります。大学教育を受ける前提となる基礎的知識などを大学生が入学前後に学び直す補習・補完教育として、主に大学入学初年次におけるリメディアル教育の導入と整備が多くの大学で課題となっています。今回、地球環境科学部におけるリメディアル教育の導入と課題について報告します。

当学部では、初年次での語学教育や一部の実習科目で教育内容を共通化しており、基礎的な学力の不足により、それら授業運営に支障が出るだけでなく、順次性学修への悪影響も顕在化してきました。こうした背景から、課外の補習・補完授業の場としてリメディアル教育を導入し、基礎力アップのための機会を提供しています。まず、環境システム学科においては、2013年度、主に1年生を対象とした任意の学修の場として、数学の補習を水曜6限に計27回実施し、また、英語の補習を火曜5限に計25回実施しています。

つぎに、地理学科では、4年生を対象として2007(平成19)年度に導入された「エクステンション講座」を拡充する形で、初年次学生を対象とする講座が整備されてきました。これらの講座は、正課の授業(科目)に紐付けられており、講座では、紐付けられた科目に関する質問、理解不足な学生に対する指導が行われています。2013(平成25)年度、「基礎地図チュートリアル」が計26回、「数的処理チュートリアル」が計13回、「地図地理検定試験対策講座」が計16回、「イラストレーター・パワーポイントチュートリアル」が計15回実施されています。これらの講座

立正大学FD活動報告(平成26年度)

に、1期は毎回10~15名、2期5~10名程度参加しました。

両学科ともに、こうした講座への参加は原則として任意であり、正課の授業科目とより連動させることで、さらなる教育効果が期待できるのではないかと考えられます。ただし、新入生の学力に関する客観的な把握方法が確立しておらず、必ずしも効果的な教育の場になっているとはいえません。また、基礎的な日本語学修においてICTの活用などが必要かと思われませんが、未だ検討段階にとどまっています。さらに、人材と予算を安定的に確保する方策なども今後の課題といえるでしょう。



伊藤徹哉准教授による事例報告



パネルディスカッションの様子



各学部の取り組み事例を聴く参加者

題目

経済学部のきずなをつくる
ゼミナール大会

～1年生、ゼミ生、卒業生をつなぐ～

経済学部(発表者・蓮見雄教授)

経済学部ゼミナール大会は、今年で第25回を迎える伝統行事です。ゼミ大会は、各ゼミから選ばれた学生たちからなるゼミナール協議会が中心となり、ゼミ参加費を財源として、開催している学生の自主的な活動です。同時に、この活動は、(1)経済学部予算の支援を受け、(2)学部の教育システム、特に少人数教育の一環として位置づけられています。

伝統あるゼミ大会を更に充実すべく、ゼミナール協議会と学生担当教員が協議しながら改革を進めています。第1に、外部講師の講演を廃止し、ゼミ報告に集中できるようにしました。第2に、報告の点数化や順位付けを廃止し、報告大会での意見を参考に提出論文の加筆・修正を行う期間を設け、完成版をゼミ論集用に提出することにしました。第3に、1年生のゼミ大会の聴講をゼミナール応募の条件としました。第4に、大会終了後に、教員および比較的若い同年代の卒業生を交えた懇親会を開催しました。

この結果、以下のような改善がみられました。第1に、ゼミ大会は、2、3年生が1年生に対してゼミをアピールする場になりました。第2に、1年生も、どのゼミナールに応募しようかと考えながら真剣に報告を聞きました。第3に、提出論文の加筆・修正期間を設けたことにより、順位ではなく内容に関心が向くようになりました。言い換えれば、他者との比較に終始するのではなく、昨日の自分と明日の自分の比較にもとづく向上心が芽生えました。第4に、比較的若い先輩を交えたゼミ大会終了後の懇親会は、ゼミ大会後は、その経験を生かし就活に取り組もうという気持ちの切り替えのきっかけとなりました。こうして、ゼミ大会は、1年生、ゼミ生、卒業生をつなぎ、経済学部のきずなをつくる場となったのです。

次回FD講演会(パネルディスカッション)開催のお知らせ

開催日:平成26年7月19日(土)15:30~17:00

会 場:立正大学品川キャンパス第6会議室・熊谷キャンパス
第1会議室(遠隔教育システムによる両キャンパス同時開催)テーマ:教育方法の工夫・改善に向けた取り組み事例③
-経営学部・心理学部・文学部-「グローバル人材育成と教育プログラムの開発」を中心に
学部FDの取り組みを報告いただく予定です。